

U30

(アンダー30, 2~5人, 20分)

いずれにしても、30を超えてはいけません。30を超えるプレイヤーが出た際に、最も30に近いプレイヤーが勝利します。

準備

- ・ペアーズ1デッキ
- ・各自、現在のスコアを記載するメモ用紙と筆記用具
(スコアボードとプレイ人数分のマーカーがあると便利です)
- ・自分の目の前に、自分だけのカード置き場をつくる必要があるため、少し広めの机を囲んで座ります。
- ・デッキを裏向きでよくシャッフルし、机の中央に置きます(以後、これを『**山札**』と呼びます)。
- ・山札から、全員に裏向きでカードを1枚配り、各自、自分だけがカードの中身を確認します(これを『**手札**』と呼びます)。
- ・この手札の中身は、自分以外には誰にも教えてはいけません。また、後述する『**手札の交換**』以外で、カードの内容を公表することはできません。
- ・スタートプレイヤーを適当な方法で決めます(たとえば、じゃんけんで勝った人や30歳により近い人など)。

ゲームの流れ

- ・カードの分配をくり返すゲームです。スタートプレイヤーが最初の『ディーラー』となり、ゲームをはじめます。カードの分配が終わるたび、時計回りで順番にディーラーを交代します。
- ・ディーラーは、まず、いったん山札の一番上から人数分の枚数のカードを裏向きで引き、山札の隣に並べて置きます。たとえば、2人で遊べば2枚を、5人で遊べば5枚を並べます。
重要: 引いたカードの内容は、この時点ではディーラーを含め、**誰も見ることはできません**。
- ・ディーラーは、いま引いたカードの中で、好きな一枚をおもて向け、そのカードを(自分を含め)誰に渡すか決めます。
- ・渡されたカードは、自分の目の前に左から右へ横一列に並べます。この際、数字が見えればカードを重ねても良いです。
重要: 今回のカードの分配で、**すでにカードを渡したプレイヤーには、2枚目となるカードを渡すことはできません**(常に1枚)。

カードを渡されたプレイヤー

- ・まず、自分の目の前に並べたカードに、いま渡されたカードと同数のカードがないか(ペアができるかどうか)見ます。

→ ペアができた

- ・ペアになったカード2枚を即座に裏返します。
- ・裏返したカードをひとまとめにして、山札とは混ざらないよう注意しながら、その近くに置き『**裏向きの山**』とします(1回につき、裏向きの山が1つできます)。
- ・もし、すでに裏向きの山があった場合は、山札・裏向きの山と混ざらないように、かつ、裏向きの山が何個あるか常に分かるように横に並べて置きます。

重要: 裏向きの山は、一人のプレイヤーが何度でもつくることができます。

→ ペアにならなかった

- ①そのまま並べる、②手札の交換、のどちらかをカードを渡されたプレイヤーが選択します。

①そのまま並べる

- ・カードを自分の前の前に、おもて向きで置きます。
- ・すでにカードを並べていれば、一番右端にカードを置きます。

②手札の交換

重要: 手札の上限は**1枚**です。

- ・まず、すでに持っていた手札を自分の目の前に出します。
- ・そこで、すでに自分の目の前に並べたカードとペアができるかどうかの確認・処理をします。もちろん、ペアができれば同数のカード2枚を裏返し、山札の近くに置きます。
- ・いま渡されたカードを新たな手札にします。手札にある限り、そのカードは「**0**」として扱います。

- ・ディーラーは上記のカードの分配を、はじめに引いた枚数全てに対して1枚ずつ行います(全員に1枚ずつ分配する)。**パスはできません**。また、ディーラー自身を含め、どれだけ欲しくないカードであっても**拒否できません**。
- ・全てのカードを分配したら、各自、これまで並べたカードの数字の合計を宣言します(例:すでに4, 5, 8を並べており、ここに新しく7を並べた場合、 $4+5+8+7=24$ を宣言する)。
- ・各自、宣言した数字をメモに記載します。書き方は自由ですが、常に、合計がいくつなのかをしっかりと把握してください。(スコアボードがあれば、得点分だけマーカーを進め、最新の合計値をマーカーで示してください)
- ・誰も、合計して30を超えていなければ、時計回りでディーラーが移ります。ゲームの流れのはじめに戻って、終了条件を

満たすまでゲームをくり返します。

ゲームの終了

新たなディーラーが**カードを分配する前**に、以下のいずれか1つでも条件を満たしていたら、即座にゲームが終了します。

A: 合計で29ぴったりにしたプレイヤーが出た

B: 山札から、人数分のカードを引くことができなかった

C: 裏向きの山が、5つ以上置かれている

D: 誰か一人でも、合計が30以上となっている

勝敗

A: 合計で29ぴったりにしたプレイヤーが出た

・自分の目の前に並べたカードが、合計で29ぴったりになったプレイヤーは、即座に勝利します。

・もし、29ぴったりになったプレイヤーが複数存在する場合は、その中で**手札の数字が最も大きいプレイヤー**が勝利します。

・それも同数の場合は、該当するプレイヤー全員で勝利を分かち合います。

B: 山札から、人数分のカードを引くことができなかった

C: 裏向きの山が、5つ以上置かれている

D: 誰か一人でも、合計が30以上となっている

・30 よりも下で、最も30に近いプレイヤーが勝利します。つまり**29 が最高値**となります。

＊いずれにしても、30 を超えたプレイヤーは敗北します。

・もしも全員が30を超えた場合は、その中で最も30に近いプレイヤーが勝利します。つまり30 が最も近い値です。

・同数のプレイヤーがいる場合は、その中で**手札の数字が最も小さいプレイヤー**が勝利します。

・それも同数の場合は、該当するプレイヤー全員で勝利を分かち合います。